

先週の回答

任命責任

稲田明美防衛大臣



耳を疑うような発言を連発する稲田元防衛大臣が、矢面に立たされた。選挙の応援演説で「防衛省、自衛隊、防衛大臣、自民党としてもお願いしたい」と声を張り上げて「公務員は全体の奉仕者であって、一部の奉仕者ではない。そんなこともわからない人間はすぐ議員を辞めろ！ そんな者を大臣にした総理大臣も責任を取れ」と総理大臣も追及されたのはご存知の通り。

この稲田とゆう女性大臣は、例の森友学園問題でも学園の代理人弁護士を務めた事実を否定した翌日に撤回するとゆう離れ技を演じて鬻ぎを買った人物。「任命責任！ 任命責任」とバカの一つ覚えのように合唱する野党もどうかと思うが、決定権者は決定したことに責任

を問われるのは当然とも思う。総理大臣が閣僚や重要なポストにその人を就かせるときは、そのポストに適しているか十分考慮するのは当然であるが、総理大臣も神の子でない限り、その人間の総てを知ることが不可能でもある。

たとえば、大会社の社長が部下の不祥事の責任を取って退陣させられることがある。

「何で部下が失敗したのに社長が辞めなきゃならないの、関係ないじゃないの」とおっしゃる向きもあるようだが、社長はどんな暮らしをしているかを考えてもらいたい。

どこへ行くにも運転手付きの高級外車に乗って、家にはお手伝いさんが何人もいて、もちろん年収は社員の数倍。なぜ一般社員と桁ちがいの生活ができるか、

それは社長は偉いからである。なぜ偉いかというと、それだけ責任があるからである。いざとなったら責任を取らなくてはならない立場だから贅沢な暮らしが許されるのである。

何が言いたいのかと言うと、一般の社員と同じレベルの責任しか取らないで、生活は社長並みはサギだと言いたいのである。

総理が任命した責任を追及されているもう一人、これも女性代議士。一見場末のホステスのような豊田真由子内閣府大臣政務官は、自分の秘書に「バカ！ 死ぬ！ ろくでなし」のパワハラで辞めるコールを浴びたが、これは任命責任云々より、女性は強くなつたと感心させられた。

「パワハラ」代議士



今週の問題



□の中に漢字を埋めて
四字熟語を完成させてください。